



# 人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和3年5月25日

No.2



大宮学園

## 25日「人権の日」スタート!



## 自分人権を、そして他の人の人権を 大切にできる人に!

大宮学園では、自分や仲間や周りの人の「人権」について考える日として、毎月25日を「ニコニコの日」＝「人権の日」としています。その日一日大宮学園の園児・児童・生徒と先生は、胸に人権バッジをつけ、人権を意識する日とします。今年度は緊急事態宣言下ということで延期になっていますが、生徒会では、「ハイタッチモーニング」に取り組み、さわやかな朝の挨拶を小学生と交わっています。

みなさんの胸につけるバッジは平成27年度卒業生の奥田莉加さんがデザインしてくれたものです。バッジに込められた思いを感じながら、つけてほしいと思います。

### 作者の思い

私は、5人の子どもをデザインしたマークを描きました。  
表情は5人とも違う風にして、一人ひとり違う個性をもっていることを表しました。みんなの体がつながっているのは、みんなでひとつということを表現したからです。  
このデザインには、みんなそれぞれ違うけど、みんなつながっているという思いを込めました。

### 人権バッジ



### 「花いっぱい運動」で植えた花が美しく咲いています!

3年生が3月に「花いっぱい運動」で、プランターにたくさんの花を植えてくれました。そして、整美委員が毎日水やりと花がら摘みをして世話をしてくれているおかげで、とても美しく咲き誇っています。見るわたしたちの心を和ませてくれています。

花も私たちと同じ“生きもの”です。大切にしたいですね!



# 1学期の人権学習の取組について

1学期の人権学習は、どの学年も「いじめや差別」をテーマに学習を進めていきます。いじめの問題は平成25年にいじめ防止対策推進法が制定された後も、いじめが原因で大切な命を落としてしまう人が後を絶たないという深刻な問題です。また、新型コロナウイルス感染症をめぐる差別についても学習を深めます。

大宮中学校では、どの学年も事前に人権アンケートを取り、その結果をもとに各学級の現状を見つめ、よりよい学級づくりについて考えましょう。



コロナがなくても大切なことは

大切なことは

コロナがあっても大切なこと

大切なこと

コロナ禍で今までのような生活ができない日々が続いている。

今日も明日も、

きみたちにとって、大切な青春の1日であることに変わらない。

友達と一緒に大笑いしたあの頃。

今は、マスクの下で思いっきり笑い合う、

コロナがあっても、なくても、

きみたちの青春は変わらない。

毎日を、そして、仲間を

これまでと同じように

これからも大切にしよう。

次の文章は、京都新聞（5月12日）の読者の声「窓」の欄の投稿です。「別視点」、とても大切な考え方です。自分の見方や考え方を広げたり深めたりしていくのが人権学習です。

「3匹のこぶた 別視点なら」

舞鶴市・中学生（14）

私は小さい頃、「3匹のこぶた」の物語が好きでした。最後にオオカミがこらしめられて、とてもすっきりしたからです。しかし、オオカミ側の視点での十分な情報がないまま、判断をしていることに気付いてからは、「もしかしたら、これはバットエンドかもしれない」と思うようになりました。

オオカミが家を吹き飛ばしたのは、何か理由があったのかもしれない。例えば、こぶたたちが家を建てようとしていた場所はオオカミにとって大切な場所であったとか、もしかしたらオオカミはこぶたたちの仲間に入れてほしかったけれど、それが言えない不器用な性格だったかもしれません。

こう考えると、今まで信じてきた情報が、極めて一面的なものなのかもしれないと怖いと思います。例えば、織田信長の側から見ると明智光秀は悪者で、明智光秀の側から見ると織田信長は悪者であったりするように、どちらの視点で見るかによって判断が変わるからです。一面的な情報による偏った思想というのは、時に差別や偏見にもつながってしまうので、身近なことにおいてもさまざまな視点から考えることを大事にしたいと思います。